



四日市市立朝明中学校第1学年
学年通信第29号 2022/3/15(火)

～仲間の和を大切に・心和む学年に～

思いやる

2月28日(月)、いなべ総合病院の川村先生をお招きして、「心と体の講演会」を開きました。「3億いる精子が子宮に入り、受精できるのはたった1匹。奇跡によって生まれた命を大切にしてください。」そんな内容でした。最初は少しとまどった様子のもみなも、次第に真っ直ぐな目で、先生のお話を聴いていましたね。性教育は、これから生きるために必要なことだと感じたからでしょう。自分を大切に、そして相手を大切に想う心が、新しい命を守ることにもつながります。この日のお話を生涯忘れずにいてください。

《感想より》

ネットなどは、嘘の情報が多いので、それにまどわされないようにしていきたいと思いました。今日の講演会で、気をつけることや知らなければいけないことがよくわかりました。

性について全く知らなかったので、今回初めていろいろ知ることができました。自分は心も体も女性だと思って生活していて、もしかすると出産するかもしれない立場なので、しっかり知っておこうと思いました。

人はそれぞれ違うということがわかりました。人と違っていいというのは、本当に納得しました。自分は自分でいいと改めて学ぶことができました。素敵でとても大事な話をありがとうございました。

赤ちゃんができる仕組みや、女性、男性の身体の仕組みがわかりました。自分勝手に行動してはいけないし、相手に勝手にされないように気をつけたいと改めて思いました。

3億個の中から選ばれて、自分でがんばって出てきたと思ったら、「自分めっちゃすごいじゃん！」と思いました。お母さんも自分もがんばって生まれてきたのだから、辛いことがあっても、そんな簡単に死にたいと思わず、一生懸命がんばって生きていこうと思います。

「性」へのイメージが、がらっと変わりました。初めはマイナスなイメージだったけれど、この講演会を終えて、今はとても大切にしなければならないことだと思いました。この奇跡で得た命を大切に、父や母に感謝して、尊敬したいです。

お互いに心を許しあえる、身体の関係までになる人を見つけるのはとても難しく、だからこそ、2人の仲から生まれる赤ちゃんは、奇跡の存在といえるのだなと思いました。今日教えてもらったことを記憶に残し、正しい人付き合いをしていきたいです。

「人権学習」のスタート

前述の講演会ともつながりますが、総合的な学習では「人権学習」をスタートしています。3月2日は、4組の稲垣璃一さんと5組の西山エイヤンさんが、それぞれ人権作文を発表してくれました。璃一さんは、「ヘアドネーション」という、髪の毛が必要な方に、ウィッグとするために自分の髪を伸ばし、寄付をするという活動をした経験談を。エイヤンさんは、「外国人への接し方」について自分がこれまで体験したこと、考えていたことを伝えていました。リモートでの発表ではありませんでしたが、2人の「みんなに伝えよう！伝えたい！」という熱意は画面越しでも感じられました。2人のおかげで、みんなの視野が広がったことが、その感想からわかりました。「自分を語る」ことは本当に難しいし、勇気のいることですが、みんなだからこそ、話す気持ちになってくれたのだと思います。この信頼関係は、この先ずっと続いていく人権学習の基盤となるものです。その大切なものを1年で築けたこと、本当にうれしく思いました。これからの2年間もお互いの心を思いやって、「人権」について学んでいきましょう。

《感想より》

エイヤンさんの話を聞いて、外国人の人への接し方が知れました。外国人だからといって、差別したりするのはいけないことだと今まで思っていたのですが、その気持ちが強くなりました。

植村 怜史

その人と話して、その人の人間性を見ることが大切だと思いました。不安もあった中、たくさんの人の前で話すことができたエイヤンさんと璃一さんは素晴らしい人たちだなと思います。

井濱 雪乃

璃一さんは、「普通」という言葉を変えていきたいと言っていたので、自分もそれに共感し、変えていきたいと思いました。世界にはいろいろな人がいるけれど、その人なりに頑張っているのだと改めてわかりました。

山田 晴久

私は、話を聞いて、友だちや家族へのありがたさが改めてわかりました。今後の自分は今よりもっと、人のことを考えながら人と接してきたいと思います。

松岡 ゆず

自分と違う、そのようなことが差別につながっていく。でも、みんな違ってみんないい（十人十色）それをみんながみんな、理解することが大切なんじゃないかと思いました。みんな違うということはとてもおもしろいことで、いろいろなことを話し合えると思うからです。

浅倉 勇真

エイヤンさんの発表では、見た目などで人を見下してはいけない。その人を人種などで軽蔑するのは間違っていると思う。璃一さんの発表では、自分の大切なものを犠牲にしてまで人を幸せにするという行動にすごく驚いた。そんなことも知らない人たちが髪が長いから変だと言うことも間違っていると思う。2人の話を聞いて人を理解することはすごく大事だと思った。

宇佐美 陽大

自分は差別について「意識してなくす」で終わってはいけないのではないかと思った。外国人、好きな色、髪の長さ…。このようなことでの差別は「意識してなくす」のではなく、「普段通りに接する」ことでなくさないといけないと思う。2人の勇気のおかげでこのような体験ができて本当によかった。

筒井 智史

続く、3月10日(木)には、1年生としての「人権学習」のまとめとして人権講演会を開催しました。講師には八郷小学校の三輪真裕美校長先生に来ていただきました。当日まで、「講師の先生は誰か内緒です。お楽しみに。」となっていました。先生が体育館に入られると、「あっ。」という小さな驚きの声と、なんとなく照れくさそうな笑顔がありました。三輪先生は、大矢知興譲小学校で教頭先生をされていたから、みんなのことをよく知ってみえるのですよね。感想の中に「久しぶりに先生に会えて嬉しかったです。」というたくさんの声がありました。三輪先生からは、講演会后「反応がとてもよくて、よく話が聴けますね。」というお言葉をいただきました。成長した姿が見せられてよかったです。

講演会の内容は、「肌の色」「ランドセルの色」は様々でいい。「サザエさん一家」を例に挙げて、男の人は、女の人は…と役割を決められるものではない。そういった身近なことから丁寧にお話いただきました。また、三輪先生のかつての生徒たちのお話を聞かせていただき、人には目に見えない背景があり、考え方や思いは違うのだと改めて知る機会となりました。自分の中にも人には言えない何かがあるように、仲の良い友達にも知らない側面はあります。だから、「決めつけ」でものを言うてはいけないのですよね。璃一さん、エイヤンさんが伝えたかったところもそこにあったと思います。互いをよく知り合い、言葉にできない本音をも思いやって生活していける。そんな優しい社会をつくっていきたいですね。

《感想より》

自分ができることは少ないけれど、自分の考え方を見直すことをして、三輪先生のように、人にそのことを伝えていけたらいいなと思いました。皆が公平に幸せになれる世界になっていけばいいなと思います。

大橋 夕季南

みんなが、一人一人のことを考えれば、その人たちも幸せな生活が送れるとわかりました。そのために、自分の「ものさし」で、勝手に決めつけないということや、誰かからのうわさに対しても、本当のことだと思い込まないで、「本当にそうなの？」という気持ちをもつことを忘れないでいたいです。そして誰に対しても優しく接したいです。

川瀬 瑠夏

普段生活している中で、「～行ってご飯食べよ。」「おそろいの服買お。」と何気なく話していたけれど、各々の家庭では、金銭的に余裕のない家庭もあります。これからは、そのことも考えて人と接していきたいと思います。

伊藤 優心

人権学習は数回目になるけれど、回数を増すごとに考えや理解が深まり、みんなが幸せな創造的な社会を創るために必要なものだとわかってきました。否定せず、その人の考えや新しい考え方をどんどん受け入れて、理想的な社会を現実へと近づけていきたいです。

伊藤 爽真

それぞれ違うから、お互いの気持ちを考え合い、お互いを高め合うことで、差別がなくなるのかなと考えました。今日はたくさんの例があって、周りの人と意見を交流し合って、すごく楽しい講演会になりました。ありがとうございました。

野呂 みのり



右は、みんなが書いた卒業生への桜メッセージ。
どのクラスの桜にも、先輩に贈る心のこもった言葉
が書かれていました。先輩たちは、先生たちが声を掛けて
も動かないほど、見入っていたといいます。心が届きましたね。

左は、美術部のみなさんが書いてくれた「卒業生に贈るイラストボード」卒業式当日の昇降口に
春の風を運んでいました。ありがとう！



体育館に続く渡り廊下には、1組の藤井咲衣さんと、4組の平原諒大さんが書いてくれたメッ
セージ花道がありました。(上写真)二人の力強く、美しい字に、卒業生は送り出されていたので
した。ありがとう！

3月7日(月) 卒業式 3年生の先輩たちは、それぞれの道へと旅立っていきました。

2年生の井手梨央奈さんの送辞(送る言葉)の中には「もっと先輩たちと時間を共にして、教え
ていただきたかったというのが本音です。それは先輩方も同じで、もっと私たち後輩に教えたいこ
とがあるのではないのでしょうか。」とありました。

コロナ禍で、先輩と接する時間は多くなかったかもしれませんが、ですが、残してくれたものは た
くさんあります。入学した時は、何もわからなかったみんなが、学校生活に慣れ、充実した日々を
過ごせているのは、先輩たちがその姿で教えてくれたことが大きいのではないのでしょうか。

4月から、みんなは「先輩」になります。

不安だったあの日々を思い出し、新入生に言葉と、姿で教えられる人になっていきましょう。